

「担い手不在集落と担い手とのマッチングに向けて」

京都府 京都市農業委員会 京北・左京山間部農林業振興センター

＜京都市右京区京北地域＞

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況（京都市全体）

○ 農業委員	:	21人
○ 農地利用最適化推進委員	:	29人
○ 事務局職員	:	11人
○ （関係団体名）	:	
○ 市町村行政との連携状況	:	年4回の推進委員会議及び必要に応じて随時協力して対応している。



2 地区の特徴、状況、課題

- 京都市には都市農地、調整区域の優良農地、山間部の農地があり、それぞれに合った農業が営まれている。
- 中でも京北地域では、農地の多くが山間部に位置し、一部を除き20ha前後の小規模な団地である。
- 水稻生産が6割を占め、都市近郊という立地と、気象条件を生かした野菜生産も盛ん。

3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 令和5年8月に京北地域の農家組合長と認定農業者を対象に地域計画説明会を開催。白地図や農地一覧等を配布し、地域での話し合いや地図の着色（現状・目標）等を依頼（適宜、委員・行政が話し合いに参加）
- 説明会での「地域内に担い手農家が少ない、いない」等の意見を踏まえ、認定農業者等へアンケートを配布し、他地域への経営拡大意向の有無や各地域への情報共有等についての調査を行っているところである。将来的には認定農業者と地域とのマッチングにつなげていくことを検討する。

4 成果（京力農場プランの目標実現に向けた取組内容）

- 説明会の後、農家組合長や認定農業者から、地域での話し合い手法や担い手農業者への集約・集積方法などの相談も増え、地域内での機運も高まりつつあると感じる。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください